

第3章

社会教育の現状と課題、方向性



．子育て

1．現 状

地域の連帯感の希薄化が問題視される中、本町でも地域の子どもは地域で育てるという意識が薄れ、個人では、地域の子どもとの関わりはありますが、子育てが地域ぐるみの取り組みになっていないのが現状です。

子育て支援センターでは、子育てに関する相談や情報の提供がなされ、利用者は十分に活用しています。子育て中の親子が出会い・語り・交流することは「学び」であり、子どもにとっても社会性を培う場になっています。しかし、生活環境の違いや価値観の多様化などにより全ての親が子育て支援センターを利用している状況ではありません。

子どもの虐待・育児放棄が今、大きな社会問題になっています。次代を担う子どもたちをどう養育するのか、家庭の在り方、親の在り方が問われています。

平成22年度から『ブックスタート』が開始され、子育て支援の充実が期待されています。しかし、より良い親子関係を構築するための妊産期からの学びの機会には充分ではありません。

父親の子育て参加については、増加しており保育所・学校行事やPTA活動など積極的に参加する傾向にありますが、妊産期からの子育てについては理解や協力がまだ充分ではありません。

郷土の産業を理解できるよう工夫された親子参加型の体験事業が開催され、参加は少ない状況ですが、参加者に高評価を得ています。

2．課 題

子育て支援事業の情報発信を工夫する必要がある。

父親の子育て参加に対する意識を高める必要がある。

妊産期からの学びの機会が必要である。

地域の教育力を高め、地域ぐるみで子育てをする必要がある。

子育てに関する情報を共有する機会が必要である。

食育の機会を充実する必要がある。

健全な親子・家族関係の構築が必要である。

3．今後の方向性

子育て支援に関する情報発信の工夫

妊産期から学ぶ機会の充実

食育の充実

親子対象事業の充実

子育ての情報を共有する機会の充実

．育ち

1．現 状

基本的な生活習慣や善悪の判断などの倫理観・社会的マナーなど、生きるための基本的な能力は家庭だけではなく、社会生活から養われる部分が大きく、特にコミュニケーション能力は、子どもがより多くの人と関わることで身につくと考えられます。

小学校3校が交流を目的として一堂に会する機会はありません。小・中・高の異年代の交流はボランティア活動を通じて取り組まれています。その機会は充分ではなく、また、子どもと青年あるいは子どもと高齢者など、異世代の学び合いの機会も少ないのが現状です。

子どもが親の仕事を理解したり、郷土の産業を学ぶために、郷土の資源を活用した体験事業が開催され、親子での参加が見られます。

給食を通し、食育への期待が高まっていますが、食生活の乱れは給食だけではなかなか改善されず、欠食や偏った食事などの食生活に起因する様々な健康問題も生じてきています。また、家族と一緒に食卓を囲み、子どもと語り合うなど、食を通した「学び」の機会が充分ではありません。

2．課 題

食育の機会を充実する必要がある。

基本的な生活習慣を身につける必要がある。

学校教育との協働が必要である。

異世代が共に学び合う、町民の力を活用した社会教育事業が必要である。

郷土（ふるさと）教育に取り組み、郷土愛を育む必要がある。

体力の向上を図る必要がある。

すべての人が事業に参加しやすい工夫が必要である。

3．今後の方向性

食育の充実

学校との協働

地域の多様な人材を活用した事業の展開

郷土の資源を活用した体験事業の実施

事業に参加しやすい環境の整備



．学び

1．現 状

「学び」の機会は、いろいろな研修会・講演会などが開催されており、その内容も充実していますが、その広がりには充分ではありません。特に若い世代の参加が限られており、人口減に加え少子社会で急激に減っている青年層を、地域社会を担う原動力として生かしてきていない状況です。高齢者を対象とした『寿大学』が開講され、その内容も多岐にわたり充実しています。しかし、在籍している学生が高齢者の1割程度と少ないのが現状です。

情報社会となり、必要な情報を得る手段はインターネットなど多種多様にありますが、情報の収集・的確な選択を行う「情報力」が充分ではないため、必要な情報が得られない状況にあります。

女性の社会参加・学習活動の意欲は盛んで、各分野での女性の活躍が見られますが、学びの環境・社会参加への理解はまだ充分ではありません。

2．課 題

若い世代の力を、社会活動に生かす必要がある。

生涯にわたって意欲的に学ぶ姿勢を養う必要がある。

情報の収集・的確な選択を行う「情報力」を高める必要がある。

高齢者の知恵を、若い世代に伝承していく必要がある。

女性の学習活動・社会参加の環境を整備する必要がある。

3．今後の方向性

各世代や世代間の交流・対話の機会の充実

若い世代の力を活用して、情報力を高める機会の充実

学びたい時に必要な情報が得られる環境の整備



．生きがいづくり

1．現 状

元気のある社会は、そこに生きている人たちがいきいきと自発的に活動している社会といえます。高齢者は、ボランティア活動等を通し、生きがいを持ち充実した生活を送っています。一方、若い世代は、趣味・スポーツ等活発に活動していますが、職域や活動分野を越えたつながりが少ないのが現状です。

人口減少に加えて社会性に富む人材が減り、各種団体の活動も停滞気味となっています。活発に活動している地域の老人クラブも、将来的には参加する交通手段の確保に不安があります。団体内の定例会なども盛んに行われていて、地域内における親睦は図られていますが、他の地域・分野の人達と交流する機会が少ないのが現状です。また、地域の団体に属していない人達が多くおり、年齢を重ねるとともに孤立化する人が増えている状況です。

2．課 題

社会性を育む必要がある。

世代・地域を超えた交流が必要である。

社会活動に積極的に参加する必要がある。

事業・活動に参加しやすい環境を整備する必要がある。

3．今後の方向性

少年期から、ボランティア等の社会活動への参加促進

事業・活動に参加しやすい環境の整備

世代・分野を超えて交流・対話の機会の充実

ボランティア活動等を通じ、社会参画と生きがいづくりの推進



．健康づくり・スポーツ

1．現 状

健康意識の高まりとともに、生涯スポーツとして、軽スポーツを中心に好きな時間に好きな場所で運動を行っている個人が増えています。一方、団体活動としてのスポーツ活動では、人口の減少とともに成人層の活動が停滞しており、複数競技の掛け持ち等、実競技人口は少ない状況です。少年のスポーツ活動では競技性が求められている傾向にあり、中学生になると部活動をはじめ、スポーツへの参加・活動率は高くなっています。

社会体育事業は、幅広く実施していますが、健康づくりの多様化が進んでいるため、住民のニーズに的確に応える事業の展開は困難な状況になっています。

施設利用においては、受益者負担の考え方が充分浸透しています。

町内のスポーツ団体・サークルの活動情報を、『生涯学習サポーターガイド』等を通して発信していますが、住民に充分周知されていないのが現状です。

2．課 題

幼児・少年期にスポーツの面白さを伝えることが必要である。

スポーツに目を向けるきっかけづくりが必要である。

地域に出向く事業が必要である。

指導者の育成・確保が重要である。

団体の活動情報を住民に周知し、スポーツ人口の増加を図る必要がある。

関連する機関等と連携を図りながら、健康づくりを推進する必要がある。

3．今後の方向性

各年代に合った出前講座の推進

指導体制の充実と指導者の育成

情報発信の充実

関連する機関等と連携・協力

．芸術・文化

1．現 状

本町の芸術文化活動は、文化連盟が中核となり所属団体がそれぞれ町民センター等を利用し活動しています。しかし、人口の減少と会員の高年齢化が進行し、新会員の獲得が困難となっています。積極的に活動している会員は、複数の団体に加入しているなど、実際の団体登録者よりも少ない人数で活動している状況です。また、各団体の指導については、町内指導者が少ないのが現状です。

住民の鑑賞機会については、乳幼児、小中学校、高齢者教室まで社会教育事業として年代に合わせ幅広く実施しております。このほか民間で組織している芸術文化事業企画委員会『夢創』も鑑賞事業に取り組んでいます。しかし、会場の条件や公演料等の関係で、住民の声を反映した事業を実施するのは困難な状況です。また、会員数が少なく、高年齢化が進んでおり、組織の運営体制も懸念されています。

文化的講座は、高校開放講座をはじめ、町民講座『夢工房』等が開催され、女性の

参加が目立っています。

遠軽地区教育委員会協議会で発行している『なな・なんと情報』は、遠軽地区3町の文化情報・イベント情報が掲載され、町外での芸術文化事業の情報を得る貴重な情報源となっています。これにより、町外に足を運び、芸術文化に触れる住民が増えてきています。しかし、町内の芸術文化団体の活動情報が、住民に充分周知されていないのが現状です。

2. 課題

- 成人期の鑑賞機会の拡充を図る必要がある。
- 近隣町村との情報交換、ネットワークが必要である。
- 既存の文化団体・サークルに対する支援が必要である。
- 芸術文化事業企画委員会『夢創』への活動支援が必要である。
- 町内指導者の育成が必要である。
- 団体・サークルの活動情報の提供を充実する。

3. 今後の方向性

- 幼児・少年対象の鑑賞事業の継続
- 芸術文化事業企画委員会『夢創』の運営体制の強化・協力
- 文化団体・サークルへの支援
- 町内指導者の育成・活用
- 情報発信の充実
- 近隣町村との芸術文化情報の共有

文化財

1. 現状

文化財保護の取り組みは、現在は町・道・国指定文化財の存在は無く、周知の埋蔵文化財包蔵地に関わる土木工事等がある場合に事前協議を実施し、文化財の保護に努めています。

開拓資料館は、小学生の社会科見学において毎年活用されており、ふるさとの歴史の学習に役立っています。見学の際には、学校との連携を図り、説明ボランティアを依頼するなど配慮を図っていますが、ボランティアの高年齢化が顕著です。

2. 課題

- 開拓資料館の説明ボランティアの育成が必要である。
- 開拓資料館の利用促進が必要である。

3. 今後の方向性

- 開拓資料館説明ボランティアの発掘・養成
- 文化財に触れる機会の提供
- 開拓資料館を活用した、ふるさと教育の推進

・施設

1. 現 状

施設全般において老朽化が進み、適時整備が行われていますが、住民のニーズには充分応えられない状況にあります。平成 18 年度の使用料改定による利用者負担増は、住民の理解が得られ、施設は有効に活用されていますが、人口減等により、利用者数は減少しています。また、体育施設は幅広い年代に利用され、競技よりも健康増進のための利用が増加しており、スターでは保健福祉課との連携が図られ、さまざまな事業が円滑に実施されています。

【図書館】

本離れ・新聞離れが進み、本に触れる機会を提供する図書館の重要性が高まっているなか、図書館は、長い間専門職である司書不在の状況が続いています。学校や福祉施設等の団体利用による図書の貸し出しに積極的に取り組んでいます。移動図書館車は継続して運行しており、貸し出し冊数は増加の傾向が見られますが、ステーション数は減少している状況にあります。また、平成 22 年度より、保健福祉課・子育て支援センターと連携した『ブックスタート』事業を実施しています。

2. 課 題

計画的な更新整備が必要である。

運営管理の在り方（指定管理・民間委託等）を検討する必要がある。

利用者のための環境整備が必要である。

事業スタッフの充実（ボランティアを含む）が必要である。

【図書館】

司書の配置が必要である。

読書環境の整備と読書機会の提供が必要である。

コミュニティ機能の充実が必要である。

移動図書館車の多様な活用方法を検討する必要がある。

学校図書と連携の充実が必要である。

3. 今後の方向性

施設の計画的な整備

効率的な運営管理の在り方を検討

ボランティアスタッフの育成・活用

救命救急体制の充実

【図書館】

多様な活動の推進

活動の周知・明確化

司書の配置

『節目ブック（仮）』*事業の実施

*生涯にわたって本に親しむことを目的に、小学校入学・成人式・還暦など人生の節目に本を贈る事業

社会教育施設の中で図書館については、今後の事業・活動について審議・検討しましたので【図書館】で記述しています。

．情報・制度

1．現 状

情報については、定期的に発行される『夢通信』『なな・なんと情報』や、平成21年度発行『生涯学習サポーターガイド改訂版』等により提供されていますが、情報を「受信する・発信する・発信させる」という視点からは十分に機能していない状況にあります。

学習支援は、『まなびすと』『生涯学習インフォメーション』等により継続して実施されていますが、認知度が低く、現行制度では充分ではありません。

2．課 題

- 広く住民との意見交換が必要である。
- 広報紙の集約を検討する必要がある。
- 情報発信の専門職の配置が必要である。
- 学習支援制度の整備が必要である。
- 制度に関する情報提供が必要である。

3．今後の方向性

- 情報交換の機会の充実
- 広報紙の集約と、魅力ある紙面づくり
- 情報収集・提供機能の充実
- 学習支援制度の充実

．団体支援

1．現 状

団体離れが進み、連盟・協会への加盟も減少していますが、未加盟の小グループ・サークルの活動は活発に行われています。活動の周知と、団体への支援は継続して実施されています。

2．課 題

- 連盟・協会への支援が必要である。
- 連盟・協会に属さない団体・サークルの把握と支援が必要である。

3．今後の方向性

- 情報収集・提供の充実
- 団体・小グループの活動支援